



休日の正門から

木葉小便り

令和4年5月9日(月)発行
文責 校長 吉野 新吾

こんな学校・子供に!(めざす学校、めざす児童)

令和3年度の学校評価からの課題をもとに、本年度の「学校教育目標」を設定しました。

〈学校教育目標〉

自他を大切にし、豊かに学ぶ木葉の子

めざす学校像 「学校とは、子供が賢くなり、自信のつくところでなければならない」

めざす児童像(児童につけたい資質・能力)

- 1 主体性:自分で考え、行動(学習)し、ねばり強く最後までやり抜く子供
- 2 協働性:友達の思いを大切にしながら、ゴールに向かって協力する子供
- 3 規範性:社会性を身につけるため、小さな約束を大切にすること

冒険させる(自分の頭で考え、チャレンジすること)

4月のスタートの日に、下の資料を渡して、校長としての思いを先生方に伝えました。入学式では、1年生に「どんなことでも、まず自分で考えて、やってみてほしいということです。「チャレンジ」と言います。誰かに言われてやるのではなく、失敗してもよいのでまずチャレンジしてください。」と伝えました。木葉小は、子供をしっかり見ていきます。

「そんなことをしてはダメ!」「危ないからやめなさい」大人はすぐに、見張りたくなります。先回りして止めさせたくなくなってしまいます。

はっきり言えるのは、失敗しない子どもに育てたいなら、何もさせないことが一番だということ。走らなければ、転ぶこともありません。受験しなければ、落ちることもありません。しかし、人は必ずいつかは失敗します。大人になって初めて失敗したのでは、立ち直り方がわからず、呆然としてしまうでしょう。そうならないためには、見守られている子どものうちから小さな失敗を何度もして、失敗に強くなるしかないのです。

冒険をさせるか、させないか。それは、子どもと大人がどれだけ言葉をきちとやり取りしているかで、答えが決まるでしょう。ある子どもにとってはその冒険はダメと言わなければならないかもしれないし、別の子にとってはもっと冒険したほうがいいのかも。子どもをしっかり見ていれば、おのずと答えは出てくるはずで。

(「奇跡と呼ばれた学校」 荒瀬 克己著)

授業を大切にできる学校

学校の先生は、学校において教育活動をして給料をもらっています。「教育のプロ」と呼ばれることがあります。

それではアマチュアとプロの一番の違いは何でしょうか。アマチュアは「自分の楽しみ」のためにそれをします。他人に迷惑をかけなければよいわけです。プロはそれをしたことで「人に喜ばれ、感謝され、その代償としての報酬(給料)」をもらいます。では、教育における「人に喜ばれ、感謝されること」とは何でしょうか。子供に実現する教育の成果をおいてほかにありません。

「学校は勉強するところ」です。社会で生きていく力を育む場所です。1時間の授業を大切にする木葉小でなければならないと思っています。

